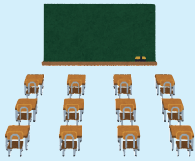


インクルーシブ教育の充実に向けて

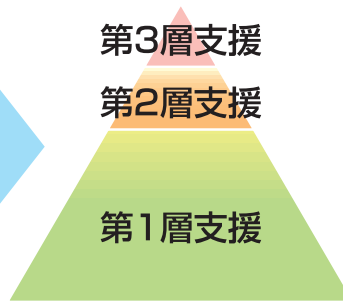
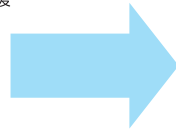
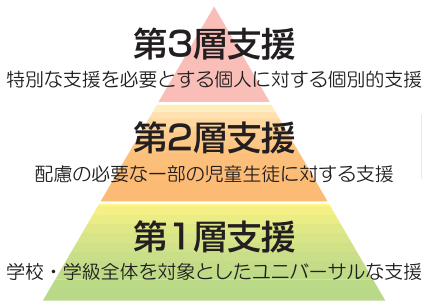
～多様な子供たちがいることを前提とした支援のために～



通常学級にも、多様なニーズのある
児童生徒がいます

- 認知特性
- 不登校傾向
- 発達障害
- 文化や言語
- ギフテッド
- 家庭環境

「誰一人取り残すことのない」学びのためには、多様な子供を想定した
第1層支援（学校・学級全体を対象とした支援）の充実が大前提



第1層支援で支援できる幅を広げることで、個別支援を必要とする第2層・3層の子供への適切な支援がさらに可能になります。



第1層支援の充実のための振り返りポイント

①学級雰囲気は整っていますか？

誰もが学びやすい環境づくりのためには、学級雰囲気を整えることが最重要となる。環境調整や他者を尊重する雰囲気づくりなど、学習環境が整っているか確認する。

学級雰囲気
チェックリスト



②多様な学び方が用意されていますか？

学習に参加しやすい方法・表現の方法・理解の方法は、一人一人得意なやり方が異なる。あらかじめ複数の選択肢を準備することで、子供が自分にあったやり方を選択できるようにする。教師の支援の幅を広げることもつながる。



- (例) 覚えるとき
- 書いて覚える
 - 絵と結びつけて覚える
 - 動画で覚える



一人一人得意な学び方はちがう

- (例) 考えを伝えるとき
- 絵で表現する
 - 文章で表現する
 - 映像で表現する



③支援が適切だったか、振り返りができていますか？

適宜、支援の工夫について振り返るようになることが大切。ポイントは、「その子供が学びに向かえたか」「理解が深められたか」である。「支援をしたはずなのに、うまくいかなかった」と思う場合は、上記①②を再度確認するとともに、別の支援策を検討する必要がある。

学校全体の仕組みづくりや教材を用いて更なる第1層支援の充実を図りましょう

学校生活

学校・学級全体で取り組む
ポジティブな行動支援

- (例)
- 学校全体で望ましい行動を具体的に設定する。
 - 望ましい行動のモデルを教師と子供で共有する。
 - 具体的な支援計画を立てて実行し、数を記録する。
 - 学校・学級の取組の成果を掲示し、可視化する。
 - 成果に応じて行動の前後を修正する。

令和3年度 指導の重点・主な施策



「ポジティブな行動支援（PBS）とは？」



「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」



学習

多層指導モデルMIM

- (例)
- 低学年の全学級が毎月「めざせ よみめいじん（アセスメント）」に取り組み、クラスのつまずき傾向を捉えながら指導する。
 - デジタル版のMIMで、一人一人のつまずきに応じた学習に取り組む。
 - 3rdステージの子供の支援体制を校内で検討する。



令和元年度 指導の重点・主な施策

「多層指導モデルMIMを用いた読みの流暢性の育成」